

## 浦安三番瀬をもっと知りたい！

対 象：(小学生以上)  
 人 数：(2名～20名)  
 教科／分野：(理科、社会)  
 授業時間数：(80分～120分) 注：大潮の最大干潮時から1時間程度以前開始が望ましい  
 場 所：(干潟、雨天時は学習室など)

ESD プログラムへの 思い	普段意識することがない身近な自然環境（三番瀬）が持つ意味とそこに生息している生物を知るにより人間が享受している自然からの恩恵と人間が及ぼす自然への影響について考える機会になれば良いと思います。		
目標	学習者が海辺の生き物に関心を持つようになる。 学習者が干潟の浄化能力を学習できるようになる。 学習者が干潟や浅海域の重要性を考える。 学習者が環境保護の方法を習得する		
特徴	三番瀬というフィールドで行うプログラム。生き物を採集するなど五感を使って体験することにより、より多くの気づきが得られる。		
持続可能な社会づくりの構成概念	多様性	異なる自然環境において生活する生き物の存在と意味を理解する	
	相互性	海辺の生き物から受ける恩恵と人間が与える影響を理解する	
	有限性	環境資源の有限性を知る	
	責任性	干潟や浅海域を保全・保護していくことを理解する	
	連携性	個人が社会に連携することの重要性を理解する	
	公平性	自然環境が与える影響は人間を含めすべての生物に関わることを理解する	
重視する能力・態度	① 批判的に考える力 ② 未来像を予測して計画を立てる力 ③ 多面的、総合的に考える力 ④ コミュニケーションを行う力 ⑤ 進んで参加する態度 ⑥ つながりを尊重する態度 ⑦ 他者と協力する態度 ⑧ 人が環境に及ぼす影響と自然からの恩恵を感じ取れる能力		
プログラムの流れ			
時間	ねらい	方法 場所	内容
15分	三番瀬の地理や規模、潮の干満のメカニズムと生き物の関係を理解する 安全面における注意事項を確認する	学習室など	月の満ち欠け図やタイドグラフなどを使って潮の干満のメカニズムと水際線の存在が生物の多様性に関連していることを解説する。 干潟でよく見られるアサリなど二枚貝をピックアップし生態などを解説する。 危険生物の存在や護岸などの滑りやすい状況を図などを使って徹底する。

30分 ～ 60分	参加者が生き物採集をすることで生き物の住処の実際を知り捕まえ方または注意点などを実践から学ぶ	三番瀬	<p>どういふ場所に生き物がいるのかを観察し、実際にタモ網やシャベルなどを使って生き物を採集してみる。</p> <p>(事前にアサリなど2枚貝を採取するなどして浄化実験の準備をする)</p>
15分	手に取って観察することにより生活環境とその意味を学習	三番瀬	<p>水槽など容器に入れて採取した生き物を観察し生き物の形態や特徴から生態を想像する。</p> <p>2枚貝などの浄化実験の結果を観察する</p>
20分	振り返りとして人間が自然界に及ぼす影響と人間が出来ることを考える	学習室など	<p>アサリなど三番瀬で生息している生き物の餌がどこからきて、その生き物が生きるために行っていることが海水のろ過につながっていることや海産物として食卓に並ぶことで人間に大きく貢献していることなど物質循環の観点から三番瀬の存在意義と保護保全の必要性を感じてもらう。</p>
SDGs との 関連性	<p>11.住み続けられるまちづくりを (里海として地元愛を育む)</p> <p>12.つくる責任、つかう責任 (漂着ごみからプラごみ問題を考える)</p> <p>14.海の豊かさを守る (生き物を観察することにより多様性を知る)</p> <p>15.陸の豊かさを守ろう (干潟と河川の関係を理解し陸の豊かさの必要性を理解する)</p>		
学校・ 地域等 との連 携上の 考慮	<p>フィールドの危険性を理解してもらい、できるだけ多くのサポートを要請する。 また潮の干満など自然のサイクルにあわせた予定となるのでスケジュール調整を綿密にする必要がある。</p>		
対象を 発展さ せる可 能性	<p>学習を積むことにより教える立場にもなれるなど発展させられる可能性がある。 ピックアップする対象を生き物から潮の干満など視点を変えることにより広い視野でフィールドをとらえることが出来るようになる。</p>		
その他 補足事 項	<p>季節に応じて濡れても良い服装と着替え。 軍手やゴム手袋・タモ網・バケツ・観察ケース ファーストエイドキット、飲料水</p>		

プログラム作成者名 (団体名) : 今井 学 (浦安の三番瀬を大切にする会)